

附属病院検査部 Diagnostic Laboratory

検査部門に一般的に求められる検査サービスの向上（精度，迅速性，多様化）に加えて，当検査部においては，研究所病院としての特質を生かした活動，すなわち遺伝子診断学の開発も重要である．数々の制約の中で必ずしも実現が容易ではないこの2つの目標に向けて，我々は着実に作業を進めている．

A. 人事・勤務体制

1992年3月主任技師望月次雄が定年退官し，同年4月後任として九州大学医療技術短期大学の新規卒業者橋本カオルが着任した．

5月からは，国家公務員の完全週休2日制が実施され土曜日は全員勤務を要しない日となったが，実際にはほとんどの土曜日には緊急検査が必要なため，交替で時間外勤務を行うことにした．

B. 検査部の改修と移転

検査部が十数年来抱えてきた構造上の問題として，細菌検査室の滅菌用スペースが無いこと，および病理検査室が診療棟と離れた研究棟（約200メートル）にあることの2点が有った．事務部の協力により，平成4年度中の改修，移転を目指して計画が練られ，検査部がほぼ完全に診療棟3階に統合されることになった．検査部内の人員配置・関係の向上のみならず，検体運搬などの業務の省力化も期待される．

C. 外部委託検査に関する整備

臨床検査項目でありながら病院内で測定できない項目，すなわち外部委託検査は医療の進歩とともに増加傾向にある．病院内でできない理由は，放射性同位元素を使用するなどの技術的な点，検査件数が少ないため試薬コストが高い（開封後の期限切れ・廃棄）という経済的な点，および人員配置上の点に大別できる．これらの検査は，現在の医療レベルにマッチした診療を行うため不可欠なものばかりであり，特に当院のような中規模大学病院においてはその比率が通常の大学病院よりもやや高いのもやむを得ないと思われる．しかしながら最近，その経費が病院医療費総支出の5%強を占めるに至り，何等かの対策を講じる必要性が生じてきた．

このため2月に外注委員会を新たに発足させ，『外部委託検査取扱内規』の制定，約300項目のリストの作製，およびリスト外の項目を依頼する際の手続きなどが決められ，3月より実施された．一方，検査部自身としても外部委託検査を院内に取り込む努力を行い，腫瘍マーカー

CA19-9に続き、翌年2月より梅毒検査を取り込むよう準備を進めた。

D. 院内感染対策

耐性菌による院内感染は、高度医療による身体侵襲の増大、患者の高齢化、およびやむを得ぬ薬剤の多用化などにより、現在の医療施設にとって宿命的問題のように思われる。特に、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の問題は深刻であり、大きな社会問題にまで発展している。当検査部においては、院内感染特別委員会の活動の一環として、職員の保菌検査や院内環境の細菌検査に協力してきた。また、これを機会に、検査部内における血液や体液などの検体の取り扱いと廃棄の問題も見直しを行った。

E. 生体防御機構総合診断システム

平成4年度補正予算により約1億3千万円の予算が獲得された。これにより、検査部および関係部局の悲願であったところの1) 遺伝診断の導入、2) 血液学自動分析機の更新、3) 生化学自動分析機の更新、4) 検査部コンピュータシステムの更新、および5) ホルター心電図システムの導入などが可能となった。10月に第1回の仕様策定委員会の開催、11月に官報公告が行われ公開入札に付された。

原著論文

1. Sakemi, T., Baba, N., Yoshikawa, Y., 1992.

Angiotensin-converting enzyme inhibition attenuates hypercholesterolemia and glomerular injury in hyperlipidemic Imai rats.

Nephron 62 : 315-321.

学会発表

1. 吉河康二, 伊藤信一, 伊東義和, 末永康夫, 一番ヶ瀬義彦, 南原 繁 (1992, 2/29).
消化管サイトメガロウイルス症2例の病理学的検討.
別府市医師会学術講演会, 別府.
2. 吉河康二 (1992, 5/21).
最近経験した剖検例2例.
別府市医師会学術研修会, 別府.
3. 伊東義和, 伊藤信一, 吉河康二, 三輪勝洋, 和氣徳夫 (1992, 6/5).
子宮頸部に発生した腺扁平上皮内癌の1例.
第33回日本臨床細胞学会総会, 福岡.
4. 石井美子, 古田栄一 (1993, 6/25).

Clostridium Difficile 検出試薬「CD チェック D 1」の試用経験.

平成 4 年度第 1 回生医研集談会, 別府.

5. 伊東義和, 伊藤信一, 吉河康二 (1992, 10/31).

細胞診について.

平成 4 年度第 2 回生医研集談会, 別府.